

1996 年、明仁天皇（在位 1989～2019）は、那須御用邸の広大な森林に生息する動植物に関する正確な記録を残すことを要望された。また、環境の経年変化が観察されるよう求められた。栃木県立博物館が 1997 年から 2001 年にかけて行った調査プロジェクトの結果、3,492 種の野生生物が特定されたが、その中には絶滅危惧種（VU）や準絶滅危惧種（NT）と見なされるものもあり、環境省の種の保護に関するリストに記載されている。天皇皇后両陛下は、日程が許せば、研究者とともに調査に参加された。

明仁天皇はハゼ類の分類を長年研究されており、ハゼ科の魚類の分類に関する論文は 30 冊以上を超える。2008 年と 2016 年には皇居内でのタヌキの生態に関する論文を共同執筆された。上皇陛下はまた、2007 年から退位された 2019 年まで、皇居吹上御苑で自然観察会を定期的に行っていた。このイベントは、息子の成仁天皇（1960 年生）のもと続いている。